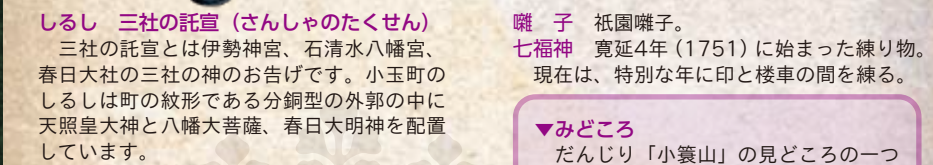


一番 小箕山 KOMINOYAMA
 こみのやま

KODAMACHO
 小玉町



屋 唐破風 (からはふ)。
根 分銅 (ぶんどう) 杖。足元に雲形の彫刻。
懸 雲 (くも) の玉 (たま) かし彫り。
眼 鯛 (うなぎ)。
魚 桐 (きり) に鳳凰図 (ほうおうず) (結露紗地に刺繍)。
水 柳 (よもぎ) 図 (ず) (刺繍、菖草下掛け)。
引 右に雀と雀と虎 (うしとこ) (二十四孝のうち
犬・楊香の図) (結露紗地に刺繍、前川
五嶺下掛け)。讀は (しる) 順天孝男生福、
天降大孝男方宗 (貴名松翁下書)。
前 幕 龍 (りゅう) と亀 (かめ) (結露紗地に刺繍)。胴幕の
幕 (まき) (朱雀、白羅虎、前幕の龍 (りゅう)、
亀 (かめ) 玄武 (げんぶ) をあわらす)。
見 足 朝野通信使図 (あさのつうしんし) (刺繍)。

▼みどころ

だんじり「小童車」の見たことのある一
は、見送者です。本郷の団地へ出かける刺
繍の見送料は、朝鮮通信使を担いで、日本
にやってくる外国人は、非常に珍らしいも
のでした。朝鮮通信使の非行は、伊賀地
域を通ることでここでありました。人々
が、この事をながめながら、当時の人々
は外国からの賓客に思っているはずこと
でしょう。もう一つは、東方の使者です。
奥州を持て東方の使者には、棲木の昔に
の由緒があると松尾芭蕉の歌「初時雨
など小童車はげばなり」が、小町歌の
象徴である分銅紋とともに染めあげられ
ています。すでに登録されてすでに野天
神祭等に、登壇に向けて動きのある
「併向」もユネスコ無形文化遺産に登録
されたいとします。

しるし 白楽天 (はくらくてん)
中国の詩人、白楽天像の大作。嘉永4年(1851)9月、京都丸屋利兵衛の作。近年、松の木を添える白楽天像に形容を変え、衣裳も新調しました。

桐 幕 左、松竹梅に鶯。右、松竹梅に飛雀(左右は緋羅紗織に刺繍、田畦桂簾下給)。菅公千年大祭(1902)を記念して新調。

見送幕 蘭人巖上に遊ぶ図(綴織)。天明3

虎根 唐破風。
 目懸 牡丹の字の浮彫り。足元に雲形の彫刻。
 魚 新丹の透かしの彫り。
 象 新丹は旭日と風。左右は麒麟花
 天 戯の図（前後蘇杭刺繍）。裏面は鳥獣花
 樹図（縹緋刺繍刺繍）。
 水引犀 富士の裾野の卷持（刺繍）。安政4
 年（1857）に京都の縫師宮崎屋三郎に
 て新調。
 二番水引犀（前）と胸袖草 雲竜波清文図
 （刺糸）16世紀後期のもの。
 前 黄石公に張良が首を捨ける図（綴
 織）。

▼だんじろ
 「だんじり」「刀鉾針」最大の見どころは
 だんじり幕です。上野天神祭の全ての
 だんじりとしてしるはれていて最も高
 級織の織る列祭分の内5分が、そ
 の他の織機2点の8分点が新町のだん
 じりとしてしるはれる懸装品（幕）です。
 その中の庄巻は見送幕「蘭人献上に遊
 ぶ図」で、平成28年（2016）に3
 年の年月をかけて現代日本の最高技術
 をもって1783年の新調當時のすばら
 しい再現しました。一見の価値があ
 ります。是非ご高覧下さい。

▼だんじろ

だんじり「薙刀鉾」最大の見どころは豪華な幕です。上天野天祭の全てのだんじりともしに使用されている最高級の織である刻糸6点の内5点が、その他の総織12点の内6点が新町のだんじりと異なるし懸装品（幕）です。その中でもの庄巻は見送幕（蘭人献上に遊ぶ図）です。平成28年（2016）に3年の年月をかけて現代日本の最高技術をもって1783年の新調当時のすばらしさを再現しました。一見の価値があります。是非ご覧下さい。

しるし 菊慈童(きくじどう) 現存する上野天神祭のしるして圧巻。享和2年(1802)菅公九百年を契機として作ら	後 幕 吳道子龍を描く図(刺繍)。 見送幕 牡丹・孔雀・松(錦織)。 囃 子 祇園囃子。
--	--

いかなればそのはしとどもたはなるらん
 【其神山】は上賀茂神社の社標で「其神」は賀茂祭の葵葉で「いかなれば」の起句を伊賀と結びつけ、だんじりの名を付けたといわれる。宝暦9年（1759）に其神山を造る。
 鬼 宝珠、龍の彫り物、被風鼠（ひさし全体）で飾りつけ。
 屋 根 丁 切こまの百花図。
 前 幕 群鳥（刺繍）。
 天 幕 山水に麒麟（刺繍）。
 水 障 百花芳芳図（刺繍）。
 簾 帯 去来の図、山園小梅の図（綯織）。

▼みどころ

宝暦9年（1759）に其神山が造られました。その後火災等を経て現在に至っています。見どころは頂上が大型の屋根です。鬼瓦には風角に雲と宝珠、両流れに精巧な竜の彫物を配っています。高さもあめむくきや勇士で大変素晴らしい佇まいです。

後の扁額に新古今和歌集の歌「いかなればそのかみやまのあふひぐさとしはふれもふたばなるらん」が彫り込まれています。「其神山」は上賀茂神社に代わって「葵荘」は賀茂の葵堂で「其山」は賀茂の山を指すといわれています。だんじりの名を付けたといわれています。

しるし 羯鼓 (かっこ) 月(つき)・諫鼓(かんこ)

文久3年(1863)9月に再調した。高木長雄の記した由来書には別文のいわれがあります。

西町記「羯鼓」のいわれ

諫鼓普添鳥不驚

昔、殿様の政治を諷する為住民が太鼓をたたいていました。殿様の政治がよければ諷しめることがなく、太鼓の上に鶏が止まると、昔がはえるさまは世の中が平穏である。その故事を引用して、形だったもの。

下給。

後牛(刺)権、伝達辺南岳下給。

勾 欄 金具は手形より打出し、太鼓金。文政2年(1819)の鈐あり。上段跳勾欄。

下段、鑲宝珠勾欄。簾の間。

囀 子 祇園囀子。

だんじり 花冠 (かかん)
鼓を身につけて踊る鼓奏師の花冠にちなんで名づけた。
屋根 唐破風。柱6本。
眼象 梅枝紋。破風飾金具に同じ紋所を表わす。
懸木 牡丹の透かし彫り。
天井 織物張り。
天幕 雲紋刺繍百(百卉：もろもろの草)(絳羅御衣に百卉)。
水引幕 蘭亭曲水の宴。東晋の永和9年(353)の蘭亭集會を描いた密画(刺繍)。
網幕 梅(刺繍)。伝「応永十一年」渡辺南岳

下絵)。
後牛(刺繍、伝渡辺南岳下絵)。
勾欄 金具は手彫り打出し、本鍍金。文政
2年(1819)の銘あり。上段跳勾欄。
下段、擬宝珠勾欄。簾の間。
囃子 祇園囃子。

▼みどころ

鼓を身につけて踊る羯鼓舞の花冠にちなんで名づけられました。宮殿を擬した華麗な簾の間があるだんじりです。毛彫打出しに本鍍金された飾金具が多く使われています。特に横櫓・跳勾の金具は水引蒔の細かな蘭草や流水の巻と共には「花冠」の存在感を際立たせています。尚、当町のしるし「羯鼓（かっこ・華鼓）」も見どころの1つです。しるし台の勾欄を飾る金具も「花冠」同様本鍍金の毛彫打出し金具であり美術的価値の高いものです。

しるし 逆闘斗(さかさのし)

天保11年(1840)に発行された天神祭の版画「伊賀上野天満宮祭礼九月廿五日行列略図」に扉画に文字の「のし」を逆さに添えた図が残っており、これに基づき昭和53年(1978)に津波重吉画伯の匠家設計により文字から鵜飼士に改め復刻した。

▼みどころ

東町のだんじり「桐本」は文政10年(1827)伊賀の仏師岡井備兵衛に由来(作られた)と。その当時菅原地守の権

だんじり 桐本 (きりもと)
神樂に生い茂る菊の大樹に幾りとところを得たものである。文政10年(1827)9月新調。
屋 根 唐破風、妻(前)雲に麒麟、「後」波に岸の影り。木6本。
鬼 板 鬼面の彫物。
鯉 魚 菊の透かし彫り。
天 井 又切さの松竹梅の蒔絵。人形師・簡井久造。
天 幕 牡丹に唐菊(桂取刺繍)。
天 幕 唐草菊の宴(刺繍、伊賀の画家大北垓堂の下絵)。
簾(のり) だんじり下簾正面、天井には菊花の絵。瓊玉勾欄付の張り出し。

▼町どころ
東町のだんじり「桐木」は文政17年(1827)伊賀の仏師筒井儀兵衛が主として製作されました。その当時原村神社の境内には桐の木が数あり、その木を神社のおびざの地区である東町のだんじりに「桐木」と名付けられました。上野天神祭の他の8基のだんじりと比べて大きく異なるのは弱肩です。水引幕が黒く、正面の袖幕が3面と連続した蘭曲水曲の雲の桐の幕で覆っています。もう一つの特徴は桐木のだんじり囃子です。上野天神祭の他の8基のだんじり囃子は祇園囃子の流れにあるのと異なり、二連拍子、大鼓、篠笛に加えて、三味線が加わった五楽奏です。この調子もつやりつやりとした雅やかなもので他とは趣を異にします。参考に桐木の曲を聴くには「桐木」の後方からが最適です。少し離れた後方から味わってください。

しるし 琴高仙人（きんこうせんじん）
 琴高仙人が鯉に乗って水中から現れたとい
 う故事にもとづく。
 文化10年（1813）9月新調。

だんじり 紫鯨 (しりん)
 鮮魚の美称、魚町の表現。又の名を「庶戸允鯨」という。諸々の役人が一堂に会して調和すること。
屋根 唐破風。せり上げ方で屋根を隆揚する。
懸天 菊花に飾葉。
雲竜 雲竜 (刺繍)。裏面は丸龍蜀江 (刺繍)。嘉永4年 (1851)。
水引帯 群賢、琴瑟畫面 (刺繍)。
胴幕 黄石公、張良、蝦蟇仙人、鉄拐仙人、牡丹に孔雀、御殿殿 (刺繍)。
前幕 西閨に閑羽、張昇、劉備玄德 (緋羅紗地に刺繍)。
見送幕 群仙図 (刺繍)。
勾欄 総金具。「金具第一」である。
柱 龍金具「上り龍」「下り龍」。
硝子 硝子障子

▼みどころ
 「紫鯨」とは鮮魚の美称で魚町のだんじりに最もふさわしい表現です。又の名を「庶戸允鯨」(諸々の役人が一堂に会して調和する事。)とも言い、その文字が前後の妻染の上部に書かれています。「紫鯨」の特筆すべき見どころは囃子座の4本の化粧柱です。雲の間を飛翔する「龍」を文様化した飾金具が巻かれています。胴幕も5枚に分かれて中国故事の英傑らが描かれており総金具の勾欄、天幕と合わさって重厚・豪華なんだんじりで

▼みどころ

「紫簀」とは鮮魚の美称で魚町のだんじりに最もふさわしい表現です。その名を「庶尹允膺」（諸々の役人が一堂に会して調和する上）ともし、その文字が前後の妻梁の上部に書かれています。「紫簀」の持主すべき息子は嘘子座の4本の化柱柱です。雲の間を飛翔する「龍」を文様化した飾金具が巻かれています。胴幕も枚に分かれて中国故事の英雄が描かれており総金具の勾欄、天幕と合わさって重厚・豪華なだんじりで、

しるし 三明轆山（さんめいのぼりやま）
轆の文字は「福居町」。この文字は松尾芭蕉の筆ではないかと伝えられている。轆は羅織紗。作成当時の轆が保存されていたので、轆車を平成2年（1990）に制作し三明轆山と名付けました。

だんじり 三明 (天体の表現)。耀緑の金貝は三重奏指定文法図。地車。車止揚け方によって綱あがって工法。地車。車軸を棒で受けて弾力ある技法を技術とす。

屋根 唐破風、とば板に菊窓の棹。庇(ひさし)には、銅銀鏡(どうぎんきょう)の星宿(せいしやく)屋根のせり上げを現れも伝承。

宵板 前は金盃の白、後ろは銀盃の白、前上しは銀盃の白とされている。

天井 井格天井造り。金箔の地に彩色色の扇面花鳥図。

天幕 唐龍図(刺繍)、夜「真名海屋」(ぬきないかい)の下の下駄。

水引席 三十六歌仙図の幕と西園庵席図の幕がある(ともに刺繍)。

胴幕 虎虎図(刺繍)、伝「円山応挙」の下の下駄。

足板 虎の刺繍の厚板、虎の表情が見所。

財。金・銀・銅・珊瑚を使い、毛彫りなどの高度な技法による作品。四隅には、四神（玄武・朱雀・青龍・白虎）を表す飾金具。

▼みどころ

「日・月・星」(天・地・人)の世界観が江戸時代の表現のままだと感心される。「三日月」は、さらに簡素な造りに施された精巧で優美な鼻金と髷の造りに対比、狂言といふ言葉がびつりの気風を演出しています。そんな「三日月」の見所として、進行時上角を占める時の「狂言し」があたりです。ちょっと大げさな重宝造りだんまりしを飾る狂言の狂言師の役。こゝでいよいよ位置換換「万力」を飾るし、いよいよ「三日月」の登場です。この時、指揮・三日月・万力、きき手船長の役を見所、片時も目を離せません。離すとやがやなやむてををふます。また、そんな緊張感といふだけの時でも、法場の背後では愛慕される「お多福」が、その場でまてまてくれています。「福屋町」の名前を失ったデザインで、豪華なほどに江戸に狂言をしでた時は、幸せを呼ぶんだと、視線を移してあげればいけがよいうか。これも、私の見所です。

するし 月鈿（つきほこ）
 平成2年（1990）に従来だんじりの屋根にそびえた「月鈿」を原型に、演進萬吉画伯の意匠により復興されました。

の飲酒詩、「采菊東籬下悠然見南山」にならう。
 前 幕 白象に唐子（平成15年（2003）に復元新調）（刺繍）
 後 幕 龍虎（呉道子、陳平）（刺繍）。

だんじり 二東(ととう)

「二東」は鍛冶町の古い町名の二之東町から名付けました。本来は三月月形の鉾を建て、「月鉾」と称します。新復興したのを「月鉾」とし、また、それとの混同を避ける為新たに「二東」を元じりの名称としました。(現在はどちらの名称も使っています。)(「二東」の評価を上げたのは何といっても県の文化財に指定されている見送幕「雲竜文」です。明時代(1368～1644)の刻糸(中国のきつめで作られた高級織物、綴織)で孔雀の羽毛を混ぜて織られています。

屋根 唐様風。化粧梁上のとげ板に牡丹に唐獅子。

眼象魚 三日月紋。

鯉魚 葉牡丹の透かし彫り。

天幕 前部が「鳳凰」に彫刻。左右・後面が「四神図像」(ともに経緯紗地に刺繍)。

水引帯 故中八仙圓(明治)制定(1986)。紫・黄・赤・青・白の五色。19世紀、肥後藩の藩主が、孔雀の毛を混ぜて織ったもので、三番圭指定文化財です。現在、だんじり会館にて常設展示しています。祭礼巡行に使用の7年足巻はこれを基に、昭和37年(1962)新調しました。

囃子 低囃帽子。囃子方の組織を二東社という。

▼みどころ

だんじり二東・月鉾のみどころは前後の幕です。前幕「白鹿に唐子」は江戸時代中期(9世紀前半頃)に製作された刺繍幕でしたが、平成15年(2003)年の年月をかけて、見事に復元新調されました。白鹿と唐子や人物、樹木に至るまで忠実に再現され、特に白鹿の立体的な表現は、特別に懸架上げの技法が駆使され、白鹿の輝きに魅了されます。

▼みどころ

だんじり二束・月鉾のみどころは前後の幕です。前幕「白象に唐子」は江戸時代後期（19世紀前半頃）に製作された刺繍幕でしたが、平成15年から2年余りの年月をかけ、見事に復元新調されました。白象と唐子や人物、樹木に至るまで忠実に再現され、特に白象の立体的な表現は、特別な盛上げの技法が駆使され、白亜の輝きに魅了されます。

しるし 日・月・星 (じつ・げつ・せい)

平成元年 (1989) に渡邊萬吉画伯の意匠により再考されました。天神様は日月の運行を司る神様で中国に由来する采配の星「唐胡星」をあしらっています。この流行時、唐胡の唐はつづり回りがなく流行し、ます。

▼みどころ

「欽玄剣鋒」の歴史は宝暦6年 (1756) に作られた「花鈴」に始まります。それ

だんじり 鉄袈鉢鉾(てつえいげんぼこ)
英は花房の意、従って花鉾を意味する。花鉾は宝暦6年(1756)。現在の鉄袈鉢鉾は安政6年(1859)。
根 破風。
前 探演(たんめい) 暗がりを探り。
額 剪拵(せんしゅう) 草を刈る。
後 梅枝紋。
頭 花丸臺獣圖(刺繍)。
眼 波之鯉圖(刺繍)。
象 漢公尚齒圖(刺繍)。
鼻 四季農耕圖(刺繍)。
水引 鳳凰顔群仙琴鶴圖(綴織)。
明 祇園囃子。
前 祇園囃子。
幕 祇園囃子。

みどりこ

「鉄鈷剣鉾」の歴史は宝暦6年(1756)に作られた「鉄鈷」に始まります。それからおよそ100年後の安政6年(1859)に現在の「鉄鈷剣鉾」が長田・屋敷を構えた安場古式組門によって建造されたといえます。屋根は切浅葺で古い鉾の形を良く伝えています。前後の杖束(たて)は向島町に居住した薩堂藩の儒者兼兵法家高見照庵の書による「本形鉄鈷」(たて)の「剪(せんぼう)」の扇額が掛けられています。せうがはと探り生きている輩を刺して……という開拓の精神を表しています。このだんじりの特色の一つは囃子屋の纏腰の四隅にある黄金に輝く御幣で、他のだんじりには無いものです。白蛇(中国の神話で四方の方向を司る霊蛇、東・青龍、南の朱雀・白虎、北の玄武)を鎮め、龍の角の両側の伝統的な様式です。屋根上には二つは、足踏用の儀には銀の刺。本祭には金色の刺を飾ります。